



2023年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年2月8日

上場会社名 ダイトウボウ株式会社

上場取引所 東名

コード番号 3202 URL <http://www.daitobo.co.jp/>

代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 山内 一裕

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員経営管理本部長 (氏名) 三枝 章吾

TEL 03-6262-6557

四半期報告書提出予定日 2023年2月8日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	3,021	3.0	162	4.0	21	44.1	18	42.8
2022年3月期第3四半期	3,114		168	13.8	38		32	

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 132百万円 (188.4%) 2022年3月期第3四半期 46百万円 (643.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	0.63	0.62
2022年3月期第3四半期	1.10	1.09

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	20,563	4,783	23.2
2022年3月期	21,113	4,646	21.9

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 4,774百万円 2022年3月期 4,629百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		0.00	0.00
2023年3月期		0.00			
2023年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,200	6.7	220	11.2	30	65.1	40	6.6	1.33

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正につきましては、本日2023年2月8日公表の「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

詳細は、添付資料P. 8 「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	30,311,000 株	2022年3月期	30,177,000 株
期末自己株式数	2023年3月期3Q	105,588 株	2022年3月期	105,562 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	30,098,225 株	2022年3月期3Q	29,894,438 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであります。今後の新型コロナウイルス感染症の影響や内外の経済情勢の変化による市況の変化等、様々な要因によって異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化しているものの、行動制限の大幅な緩和の効果や政府の経済対策などにより経済活動が本格的に再開され、全体として景気は緩やかな持ち直しを続けました。一方で、円安・資源高に伴う恩恵を受ける業態と、輸入物価の上昇によるコストアップの悪影響を受ける業態の2極化が懸念されることに加え、昨秋以降の急激な消費者物価上昇による消費者マインドの冷え込みも懸念される状況となりました。

このような中で、当社グループは、「中期経営計画ブレークスルー2024 ～PROGRESS IN THE NEW NORMAL～」に基づき経営諸課題に取り組みました。

商業施設事業におきまして、静岡県下有数の商業施設である「サントムーン柿田川」において、新型コロナウイルス感染症の行動制限緩和の効果でクリスマス・年末商戦などが順調に推移しました。一方、一部ファッションテナントが退去する機を捉え、一過性のコスト負担はあるものの本館の区画を大幅に見直し大型テナントを誘致する方針とし、そのための工事に着手しました。ヘルスケア事業におきましては、東京・大阪2拠点体制の連携を強化し相乗効果を高めることに注力し改善傾向にあるものの、特に東京地区の大口既存取引先への販売が復調していないことを主因に苦戦しました。繊維・アパレル事業におきましては、円安効果もあり引き続き中国現地法人の業績が順調で回復基調となりました。かかる中、金利上昇リスクをヘッジすべく、一定の支払利息負担の増加を加味しても長期借入金の金利固定化に取り組むことが望ましいと考え、2022年12月末時点で取引金融機関からの長期借入金利の大半を固定化しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は30億21百万円（前年同期比3.0%減）、リニューアル工事による一過性のコスト負担もあり営業利益は1億62百万円（前年同期比4.0%減）に留まり、金利固定化による支払利息負担の増加なども加味した経常利益は21百万円（前年同期比44.1%減）になりました。これに、法人税等の負担を考慮した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は18百万円（前年同期比42.8%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりです。

(商業施設事業)

商業施設事業につきましては、静岡県下有数の商業施設である「サントムーン柿田川」において、政府の行動制限緩和を背景に開業25周年を契機とした季節毎のイベントへの取り組みを強化し、クリスマス・年末商戦は順調に推移しました。一方で、本館に大型テナントを誘致するための一部リニューアル工事を開始したことによる一過性のコスト負担が発生しました。

この結果、商業施設事業の売上高は16億13百万円（前年同期比0.6%増）と前年同期比増収となり、利益率の改善により一過性のコスト負担も吸収できた結果、営業利益は5億97百万円（前年同期比3.7%増）と前年同期比増益となりました。

(ヘルスケア事業)

健康ビジネス部門につきましては、夏場における当社独自技術のバイオ麻商品が売上を伸ばしたものの、一部業態の市況回復の遅れの影響を受け、売上高は前年同期を下回りました。一般寝装品部門につきましては、円安に伴う羊毛原料コスト増の販売価格転嫁が進まず、売上・利益両面が圧迫されました。

この結果、ヘルスケア事業の売上高は8億8百万円（前年同期比13.9%減）、営業損失は24百万円（前年同期は営業損失3百万円）となりました。

(繊維・アパレル事業)

衣料部門につきましては、中国現地法人が引き続き順調であったため、売上高は前年同期を上回りました。ユニフォーム部門につきましては、官需ユニフォームが伸びたことから売上高は前年同期を上回りました。

この結果、繊維・アパレル事業の売上高は 5 億 99 百万円（前年同期比 4.8% 増）と増収し、営業損失は 22 百万円（前年同期は営業損失 24 百万円）と前年同期比改善しました。

(2) 財政状態に関する説明

当第 3 四半期連結会計期間末における総資産の残高は 205 億 63 百万円（前期末は 211 億 13 百万円）となり、前期末に比べ 5 億 49 百万円減少（前期末比 2.6% 減）しました。主な要因は、現金及び預金の減少 2 億 52 百万円、減価償却などによる有形固定資産の減少 3 億 27 百万円であります。

負債の残高は 157 億 80 百万円（前期末は 164 億 66 百万円）となり、前期末に比べ 6 億 86 百万円減少（前期末比 4.2% 減）しました。主な要因は、約定弁済などによる短期及び長期借入金の減少 3 億 83 百万円、返還による長期預り保証金の減少 80 百万円であります。

純資産の残高は 47 億 83 百万円（前期末は 46 億 46 百万円）となり、前期末に比べ 1 億 36 百万円増加（前期末比 2.9% 増）しました。主な要因は、資本剰余金の増加 11 百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加 18 百万円、株価上昇によるその他有価証券評価差額金の増加 25 百万円、金利スワップの時価評価差額の変動による繰延ヘッジ損益の増加 80 百万円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、最近の業績動向等を踏まえ、2022 年 5 月 13 日発表の予想数値を変更しております。詳細につきましては、本日 2023 年 2 月 8 日公表の「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,253,143	1,000,974
受取手形及び売掛金	660,583	590,135
棚卸資産	760,658	830,127
その他	51,095	71,832
貸倒引当金	△1,170	△1,090
流動資産合計	2,724,309	2,491,980
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,360,027	8,028,865
土地	9,265,726	9,265,726
その他(純額)	138,900	142,341
有形固定資産合計	17,764,653	17,436,933
無形固定資産		
のれん	156,889	146,083
その他	18,135	22,040
無形固定資産合計	175,025	168,124
投資その他の資産		
投資有価証券	325,088	355,222
破産更生債権等	83,256	83,256
繰延税金資産	52,675	41,714
その他	68,716	66,880
貸倒引当金	△80,228	△80,228
投資その他の資産合計	449,509	466,844
固定資産合計	18,389,188	18,071,902
資産合計	21,113,498	20,563,883

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	419,907	353,654
短期借入金	607,992	635,812
未払法人税等	4,406	5,355
賞与引当金	46,074	27,107
株主優待引当金	26,000	—
その他	656,155	670,530
流動負債合計	1,760,536	1,692,458
固定負債		
長期借入金	10,276,630	9,865,636
長期預り保証金	1,468,943	1,388,665
再評価に係る繰延税金負債	2,476,495	2,476,495
退職給付に係る負債	309,637	291,044
資産除去債務	55,147	55,558
その他	119,164	10,606
固定負債合計	14,706,019	14,088,006
負債合計	16,466,556	15,780,465
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	14,342	25,901
利益剰余金	△54,093	△35,277
自己株式	△9,781	△9,784
株主資本合計	50,466	80,839
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△15,054	10,128
繰延ヘッジ損益	△80,341	△256
土地再評価差額金	4,664,864	4,664,864
為替換算調整勘定	9,894	18,642
その他の包括利益累計額合計	4,579,363	4,693,378
新株予約権	17,112	9,199
純資産合計	4,646,942	4,783,418
負債純資産合計	21,113,498	20,563,883

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第 3 四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 2021年 4 月 1 日 至 2021年 12 月 31 日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 12 月 31 日)
売上高	3,114,687	3,021,636
売上原価	2,254,211	2,151,618
売上総利益	860,476	870,017
販売費及び一般管理費	691,616	707,866
営業利益	168,860	162,150
営業外収益		
受取利息	39	68
受取配当金	5,619	5,930
その他	1,572	2,049
営業外収益合計	7,231	8,048
営業外費用		
支払利息	129,163	142,895
持分法による投資損失	1,374	405
その他	6,617	5,121
営業外費用合計	137,155	148,421
経常利益	38,936	21,777
税金等調整前四半期純利益	38,936	21,777
法人税、住民税及び事業税	965	2,645
法人税等調整額	5,054	315
法人税等合計	6,019	2,961
四半期純利益	32,916	18,816
親会社株主に帰属する四半期純利益	32,916	18,816

四半期連結包括利益計算書

第 3 四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 2021年 4 月 1 日 至 2021年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 2022年 4 月 1 日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	32,916	18,816
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△8,109	25,182
繰延ヘッジ損益	16,870	80,085
為替換算調整勘定	4,388	8,747
その他の包括利益合計	13,149	114,015
四半期包括利益	46,066	132,831
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	46,066	132,831
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	商業施設 事業	ヘルスケア 事業	繊維・ アパレル事業	合計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	202,560	939,014	572,456	1,714,031	—	1,714,031
その他の収益	1,400,656	—	—	1,400,656	—	1,400,656
外部顧客への売上高	1,603,216	939,014	572,456	3,114,687	—	3,114,687
セグメント間の内部売上高 又は振替高	342	26	110	478	△478	—
計	1,603,558	939,040	572,567	3,115,166	△478	3,114,687
セグメント利益又は損失(△)	576,550	△3,693	△24,943	547,913	△379,053	168,860

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△379,053千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	商業施設 事業	ヘルスケア 事業	繊維・ アパレル事業	合計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	210,640	808,665	599,810	1,619,116	—	1,619,116
その他の収益	1,402,519	—	—	1,402,519	—	1,402,519
外部顧客への売上高	1,613,159	808,665	599,810	3,021,636	—	3,021,636
セグメント間の内部売上高 又は振替高	342	—	—	342	△342	—
計	1,613,501	808,665	599,810	3,021,978	△342	3,021,636
セグメント利益又は損失(△)	597,706	△24,890	△22,740	550,075	△387,924	162,150

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△387,924千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。